

ベトナムの学生さんが「あいぽーと」で治水対策を学習

3月7日(木)、ベトナム訪日団(高校生と大学生90名)が「あいぽーと」を訪れました。

訪日団の皆さんは、財団法人日本国際協力センター(JICE)東北支所さんが実施する『キズナ強化プロジェクト』に参加された方々で3月5日(火)～11日(月)まで7日間の日程で岩手県内で東日本大震災の被災地視察や復興に取り組む被災企業視察などの研修を行うプログラムの一環として、アイオン・カスリン台風をはじめとした水害に苦しんできた一関市の洪水の歴史と治水対策について学習するため「あいぽーと」を訪れました。

当日は、「あいぽーと」館内を見学して頂いた後、東日本大震災時の国土交通省の対応や一関遊水地事業をはじめとした治水対策について木村所長を講師として同時通訳を介して説明し、その後、一関市舞川地内にある遊水地展望台に移動して実際に一関遊水地を一望しながら遊水地の役割を学習してもらいました。



↑「あいぽーと学習スペース」での講義の様子。皆さん熱心に講義を聴講して、講義終了後には、東北地方整備局が大震災時に行った「くしの歯作戦」や完成間近の「胆沢ダム」の諸元などについて質問がありました。

→講義終了後には、大学で日本語を専攻している学生さんから日本語で御礼を頂きました。その流暢な日本語にはこちらが驚きました!!



館内を見学する訪日団の皆さん



展望台では、木村所長の説明を熱心に聞いていました。



丁寧に講義の御礼をいただきました。



遊水地を見学中、新幹線が通過!!

「砂鉄川」に桜が植樹されました!!

3月10日(日)、一関市川崎町門崎地内の砂鉄川堤防沿いに桜の苗木約200本が植樹されました。これは、「砂鉄川桜ロード事業」として一関市が実施したもので、かつて水害常襲地帯であった川崎地域を守っている砂鉄川堤防に亡くなった方々の魂を鎮めるといわれる桜を植栽し、砂鉄川治水事業や東日本大震災等を後世に伝えるとともに「桜ロード」が内陸部と沿岸部を結ぶ復興へのシンボルとなることを願い企画された事業です。春一番を思わせる強風の中でしたが地域の方々を中心に約200人が、それぞれの思いを胸に植樹されました。



←桜の苗木は鶴巻橋から布佐橋にかけて砂鉄川堤防及び県道東山薄衣線沿いの約2kmにわたり植樹されました。この春、統合となる門崎小学校の子供たちも多く参加し、記念となる植樹を行いました。



↑掘った穴に苗木を植え、肥料とともに土を埋め戻して水をやり植樹完了です!! 出張所でも元気な「かわさき」の象徴となることを願い1本植樹させて頂きました。